

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成 24 年 11 月 13 日（火） 午後 7 時～9 時 00 分
会 場 鶴ヶ岡分館（七彩の街町会）
天 気 くもり

参加者 13 人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆七彩の街は、県営住宅、マンション、戸建て等で構成されている。出来上がって 8 年になるが、一つの地域としての一体感がなかなか感じられない。共助という考え方を実践し、広めていくのが非常に難しい。今日の出席も役員プラス数人である。新住民が多いことも原因しているのか。祭りなど工夫して行っているが、出席者も限られている。町会の役員や民生委員の後継者をどう発掘していくのかも大きな課題であるが、良い方策が見つからない。どうしたらみんな一体感を感じられるか、行政として何かアドバイスはあるか。

☆区画整理などの時期も違い、西地区と東地区のまちづくりの形も異なっている。しかしどちらの地域にも共通していることとして、新住民と長きにわたり住んでいらっしゃる方との間には、どうしても壁があるようで、融合を図るには非常に苦労しているという話がある。そういう意味では、この地域の方たちは、比較的、同じ感覚を持っていらっしゃるのではないかと思う。地域の核となっている人たちの中に、入っていきづらいということはあまり無いように感じる。そういう利点を活かして、地域のイベントなどの際に、繰り返し地域の一体感や共助の部分を書いていくしかないと思う。行政としても、以前は窓口等で町会への加入の問い合わせを受けると、『任意』であるというような対応をしていたが、現在は違う。特に、3.11 を経験した後については、地域力の向上を訴えているので、町会加入についてはなるべく入ってもらえるよう働きかけをしている。一番大切なことは、地域の中での備えであるということ、折に触れ訴えて行って欲しい。ピンチをチャンスに変えるということで、実情を皆さんに伝えながら広めて行って欲しい。このタウンミーティング第 1 回目の大井本町の時にも、マンションにお住まいの方が見えていて、3.11 までは必要性を感じていなかった町会について、あの経験を踏まえ町会を新たに組織したいと発言されていた。停電によって高層マンションには水が供給されなかった経験があり、共助の大切さを実感されたのだと思う。

◆やはり役員になる抵抗感はあるのだと思う。そういったものを払拭して人材を掘り起こす良い方策はないだろうか。

☆市としても何かアプローチする際に、直接そのことを発信してもなかなか人が集まらないという状況である。やはり、スポーツイベントなど、人が自然に集

まってくるようなイベントの中で、たくさんの人に声かけをしていく方法しかないのではないかと。私の住んでいる地域は、上福岡1丁目というところで、商店やマンション群、古くからの木造住宅が密集している地域であるが、やはり地域が分割されている感は否めない。マンションにお住まいの方から、町会を抜きたいという意向があったりする。でも、こちらの地域の加入率は100%ということで、本当に素晴らしい。

◆新しいまちなので、全員加入という形でスタートした。

☆声かけをしていく方策として、防災資機材を揃えるのに皆さんで少しずつお金を出し合っというような話から、共通の目的を持ち連帯感を醸成していくという方法はどうか。

◆横のつながりが一番大切だと実感できる目に見えた改善策が見えない。

☆この地域は耐震基準が充たされている建物が多く、倒壊の心配が比較的少ないという環境なので、インフラが崩壊してしまうというような想定の中で、みんななで危機管理意識を高めてもらえると良い。

◆この地域に40年近く住んでいる。地域の中で転居しているが、昔はどこに高齢者の一人暮らしの方が住んでいるかなど把握できたが、今はそれが難しい。個人情報への壁があり、把握が難しいのが現実。テレビのニュースで見かけたが、どこかの自治体では法を改正し、個人情報の有効活用を図っているとのこと。ふじみ野市ではそのような考えはないか。

☆現在、ふじみ野市でも民生委員さんなどに協力いただき要援護者リストを作成しているが、確かに個人情報保護法の壁があり、実態をきちんと掴みきれない部分があるのは十分承知している。役所内の仕事でも、住基などを所管する以外の課で個人情報を扱う際には、目的外使用という届け出をしたうえでの利用というのが実態である。この壁をどうにかしないといけないと考えているところである。今度、新設される消防本部の指令台は、かなり高い機能を備えていて、119番を受けると直ちに周辺の地域にいらっしゃる要援護者がピックアップされるという優れたものであるが、それも要援護者リストが整っていればというところが肝心である。

◆公園や街路灯に関する要望が出た場合、すぐに市役所で対応してくれている。しかし、県営住宅内のハード的な要望が出た時に、何とかして欲しくてもそこは県の住宅供給公社の管轄のため、市ではどうにもならないのが現実。要望は公社にするが取り合ってもらえない。非常に困っている。アリーナも県の所有であり、電灯が切れていても勝手に取り替えられない。なのに、対応してもらえない。県営住宅の自治会役員も苦慮している。共益費をきちんと徴収するなどして、その財布から環境整備を行うのが筋だと思う。当時は公社の土地だと言われ、我々は使用できない状態だったが、今は、少し緩やかになっているので、環境整備について関与したいができないのが現実。地域全体で本当に対応に困っている。

☆県の住宅供給公社に向けて、実態など分かる範囲で確認してみたい。

◆県営の役員さんは固定でしっかりと役割を果たしてくれている。共益費の関係がうまくできれば、この問題も何とかできるのではないかと。

ふじみ野市は、道路の街灯について電気代を市で負担してくれているのか。私が以前住んでいた宮崎県の日向市は町会で負担していた。

☆市道（公道）については、すべて市で、私道については町会にお願いしている。

◆関西の市では IT 行政が進んでいて、市民からの問い合わせがあった場合、瞬時に役所内の各職員さんの個々のパソコンに内容が反映され、回答を出す部署の職員さんからはほとんど市民を待たせる事無く答えているという実態がある。是非、ふじみ野市ももっと IT 化できるところは IT 化し、市民サービスの効率化を図ったらいかがか。私がこの前、人間ドックを受けたくてその申請に伺ったが、何日かしてから自宅に許可書が届き、実際はその何日か後にドックを受検した。この例だけでも、タイムロスがかなりあるように感じる。申請を受けたら、その場で許可書を出すなどのスピーディーな対応を工夫次第でできないものか。

☆おっしゃるような IT 化まではいってないが、各職員一人ひとりにはパソコンが支給されており、内部情報などは瞬時に共有できる環境ではある。電子市役所的なものもいずれは考える必要がある。その前に、窓口のワンストップ化を目指しているところである。まずはそれが先決だと考えている。私も就任以来、市役所の仕事を見ていて疑問に思うことが多々ある。市民の立場に立っていないと思えるところがある。例えば、高齢者のゴミ出しサービスについて、利用料を市役所の窓口まで払いに来なくてはならないシステムになっている。ゴミ出しもままならない高齢者に利用料を市役所まで払いに来させるやり方はどうなのか。市役所の事業は何千とある中で、改善したいと思うことが多々あるが、なかなか追いついて行かない状況である。

◆震災時の医療体制はどうなっているのか。それと、この地域で有料老人ホームをやっているが、震災が起こった場合における避難所以外の民間等の居場所はあるのか。その際の備蓄品の関係はどうなっているか。また、生活復旧のための災害ボランティアなどを立ち上げて支援していく予定はあるのか。

☆地元の東入間医師会と連携を図り対応していきたいと考えている。重篤な状態をどこまでに区切ってどのように対応していくかという具体的な計画にはなっていない。まずは、大井総合支所など広いフロアに一時避難などしてもらってからということになるだろう。医師会とは協定を結んでいるし、この他、医療関係としては薬剤師会とも協定を結んでおり、医薬材料などを優先して回してもらおうなどの計画になっている。整骨師会とも協定締結済みである。一人暮らしの高齢者の方はどうしても不安な面が多いと思うので、それなりの避難場所を提供するつもりである。その際には、市から備蓄品等を供給させてもらうことになるだろう。スムーズな供給を行いたい。実際、3.11 の時も帰宅困難者の皆さんに、毛布などの供給も行い対応した例がある。指定避難場所にいらっしゃる人だけが、備蓄品を享受できるということではない。

◆3.11を経験した後のアンケートでは、震災時にはできれば老人介護施設に避難したいという希望が多いので、その辺を配慮いただきたい。

☆現在もコスモス園（特別養護老人ホーム）や大型量販店とも災害協定を締結しているが、ご指摘どおり、高齢者の皆さんにとってはトイレの面などもそういった施設の方が安心できると思うので、今後もさらに老人介護施設との連携を図っていききたい。非常にありがたい提案だと思う。災害ボランティアについては、支部社協や社会福祉協議会と連携しながら整備していききたいと思う。また、食糧計画についてお話をさせていただくが、一日2食を基準として、一日は市で、もう一日は県で、そして三日間を想定する中でもう一日分は、皆さんのご家庭にストックされているお米や野菜などの食糧を想定している。ご家庭ではストックしてある食品を早め早めに消費しストックを繰り返すという循環型備蓄に心がけていただきたい。

◆財政状況が非常に厳しいと認識しているが、公共施設の耐久性など、行政としてのインフラ整備の状況はどうなっているのか。

☆庁舎や学校については先ほど説明させていただいた通り、対応している状況。下水道普及率については9割を超えているが、水道事業に関しては耐震性のある水道管への更新率は52%という状況になっており、まだまだ時間がかかると思われる。その他、図書館や公民館などについては耐震化は進んでいない状況ではあるが、子どもたちの安全を守るためには、保育所の耐震化は早々に取り組まなければならないと考えている。本来の基準は、500㎡以上の建物について耐震診断を行うこととされているが、私は市内のすべての保育所に対して耐震診断を行う予定である。橋についても診断を行っている。駅については、上福岡駅、ふじみ野駅両駅について耐震性を充たしている。

◆耐震に関するインフラ整備は相当進んでいる状況に感じる。

☆守りの要である消防署もみずほ台分署だけが古い建物のまま。他は問題ない。

◆キャッチボールが出来る公園を整備してもらえないか。ネットなどの対応をしてもらえれば公園でのボール遊びも可能ではないか。テニスコート一面程度の広さで良いので、何とか対応してもらいたい。スポーツが盛んなふじみ野市として。それと、スーパーカスミが出店したり、来年には富士見市にららぽーとがオープンするなど、週末渋滞がひどい状態になると思うので、長いスパンで考えてもらい駅を挟んだアンダーパスなどを検討してもらえないか。すぐには難しいことは理解できるので、時間をかけて取り組んでももらいたい。

☆実現するには非常にハードルが高いと思うが、長期スパンでやれたら本当にすばらしいことだと思う。ただ現実的にはとても厳しい。大型店の出店について市で規制はできない。大型店が乱立して物価が下がったりすれば、我々住民には良い影響になるが、実際にはそういう事ではなく、大型店舗同士のつぶし合いになるだけで、我々にもたらされる影響は渋滞等の環境の悪化だけというのが現実。キャッチボールができる公園について、私も子育ての経験があるので気持ちは良く理解できる。ただ、子どもたちが成長していく過程で、それぞれ

の年代に合わせた公園造りができたらベストなのだろうが、そうはいかないので、子どもたちには他人に迷惑をかけない一定のルールや社会性を身に付けさせることが大事だと思う。キャッチボール禁止の張り紙をせずとも、地域の皆さんで子どもたちを育てて行く土壌作りを行いたい。

◆清掃センターの余熱施設とはどんなものか。

☆上福岡老人福祉センターの太陽の家をつぶした後に、新設される清掃センターの余熱を利用して子どもからお年寄りまでを対象にした温水施設を造る予定。

◆尚美学園は川越市になるが、閉校されてしまうとなると、まちとしては若者を失うこととなり、活気が無くなってしまうのではないか。閉校後の利用に関する情報は。

☆川越市の所管と言えども行政境の学校なので、おっしゃる通り若者の流入を継続できるような施設を誘致したいという希望はある。

◆マクドナルドから上福岡に向かう道路はかなり整備されているが、反対側については歩道も狭く、道路はガタガタで夜は真っ暗。非常に危険であるので、何とかしてもらいたい。

☆旧大井町の時代からの道路状況のため、老朽化が進んでいるのだろう。危険箇所については確認してみる。歩道の整備が必要な箇所は、市内で各所に存在しているため、限られた財源を効果的に使えるように、状況に応じた優先順位を付けて道路や歩道の整備は取り組んでいきたい。

◆運転マナーの悪い人が多いので、何とかできないか。

☆警察も精力的に動いているが、こちらからもその状況は伝えていきたい。